

日本の通信教育学習者の意見と学習嗜好：質的・量的研究から

エリック・ブレイ, Ph.D.

ネブラスカ大学, 2007

アドバイザー：Dr. Larry Dlugosh (ラリー・ドゥルゴッシュ)

この研究の目的は、日本の大学における通信教育学習者の特徴を知ることにある。ムーアら（1989）の先行研究を基に、通信教育の5つの側面に対する学生達の見解と選好を測るために自由記述と選択肢からなる質問票を作成し、アンケートを実施した。通信教育の5つの側面とは、1）学生・教師間のインタラクション、2）講座内容の明確さ、3）学生間のインタラクション、4）学生・コンピューター間のインタラクション、5）学生の自主性である。アンケートはZ大学においてウェブ上で実施され、31.3%（N=424）の回答率を得た。

アンケートの結果によると、この通信教育受講生は主に年長の女性であり、彼女らのほぼ半数は以前にも通信教育を受講していることがわかった。通信教育受講の主な動機は、仕事や家庭での多忙なライフスタイルに合った時間帯や場所で受講できる利便性にあった。自由記述によると、多くの学生が学習の時間を見つけることや、学習意欲を維持することが困難であるとしている。

学生たちは、講座内容や課題の明確さ、コンピューターの使用、このような学習環境がもたらす学習の諸課題に対処できる能力については好意的な意見を持っていた。しかし、このような環境における教師や他の学生とのインタラクションについてはあまり好意的な意見は無かった。自由記述においても、多くの学生が、通信教育環境では、教師や他の学生との交流が不足する、または難しいと応えている。

重回帰分析によれば、次のような学生には学習の満足度が高い。1）理解が難しい状況や孤立した状況に直面しても意欲を維持できる学生、2）教師との交流がたやすくできると感じている学生、3）コンピューターの使用が容易だと考えている学生、4）学習時に他人との社会的交流を好まない学生。全体的に見ると、この大学の学生の学習満足度は高く、通信教育環境における学習の課題や機会に適した学生たちにとって、この大学は魅力的であることを示している。